

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	環境部 環境政策課	令和5年度
記入団体名	福原ファームクラブ	

予算事業名	環境基本計画推進事業	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	------------	--

協働事業名称	かわごえエコツアー	
協働事業の概要	<p>市内の環境の現状と保全活動の大切さを学び自主的に環境活動に参加する人を増やすため趣旨に賛同した市民活動団体に協働委託して実施するものである。</p> <p>実施日：令和5年10月28日（土） 行程：ウェスタ川越ー栗原造園ー川越そらしど農園ー東洋大学川越キャンパスーウェスタ川越 参加者：16名（スタッフ・市職員の5名を含む）</p>	
協働事業の決算額	90,000円	補助金額 (※提案型補助金の場合)
事業の実施期間	令和5年7月19日～令和5年12月22日まで	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	①
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	③

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	4	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	34.5 点
------	--------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

協働事業は、それぞれの団体（民間・行政）が持っている利点や得意分野を活かした事業ができる制度であると考えております。団体側が有している企画・運営力やネットワーク、行政が有している広報力や市民からの認知度を一体化することによって、より高い次元での事業が実施できたものと考えております。

企画内容は、バランスよくバラエティに富んだ内容となっており、今回のエコツアーに関しましては初めての試みとして、中学生以下の子どもとその親との親子参加で募集いたしました。参加者アンケートでは「大人も子どもも楽しめました」といった意見も見られ、質の高いよい事業が実施できたものと考えております。

【市民活動団体等】

参加者数はバスの最大人数28名でなく、16名と少なく「この人数で良いのか？」と思います。しかし、子ども連れ対象としたことで知られていない環境ポイントを楽しんでもらえたと思います。

訪問先は、今後参加したいと思えば「アンテナを張って」自主参加できるところばかりです。

川越市内の単発イベント参加ではなく、継続的に環境保全とつながるツアーとなったと思います。

参加できそうな環境ポイントを探すのは難しく、子ども連れ対象とすると講義だけでは子どもが飽きてしまうので、ワークショップを組み合わせねばなりません。これから考えると自然体験、楽しみながらの保全作業等、環境ネットのネットワークで広げていきたいものです。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	5	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価 B
B	5	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C		当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・現代に求められている事業の1つだと思うが、今後はこの事業に参加した人々が、自己の生活に活かすだけでなく、第2、第3の同様な事業を発生させていくような展望が持てるような結果が出てくることを期待したい。

・事業として定着しつつある中で、新たな取り組みを行っていることについて、まずは評価したいと思います。その上で、課題を見つけ、その分析を通じてより良い事業につなげようとする意欲も感じられて良い傾向が出ているようにも見えます。今後は、慣れあいにならないよう緊張感をもって取り組んでいただければと思います。

・いつも手堅い計画で実施しており、今回は初めて親子で参加とのこと。これを継続していくことで環境に対する考え方も継承していくことが大切です。

・親子参加となるとトイレ等の問題は必須となるので担当課と協議して下さい。

・提案型協働事業で“川越的場八景蟹ヶ淵再生事業”も参考になるのでは。

・委託になるので人件費も予算計上してもよいのでは。（全体の金額が少ないので難しいとは思いますが。）

【事業に関するコメント】

- 事業を最初から始める事は大変なことです。今後も地道に頑張ってください。
- 皆に知らせる事が必要と思われる。
- 親子の募集については、小学校へのお知らせを作る等、工夫が必要である。福原小学校にチラシを作り配るとか。
- せっかく良いワークショップなので、アイデアをを作ってほしい。
- 子供を対象に続けて下さい。
- 行政の協力がもっと必要だと思います。人件費も予算に入れた方が良い。
- “かわごえエコツアー”という事業名で実施されましたが、その内容は多岐に渡っていると思います。（過去の事例をみると）
- 今回は初めて土曜開催、子供連れ対象の企画でした。その結果、参加人数は以前と比較すると少なかったが、（だからと言って目先の参加人数にとらわれず（知人、友人等で人数あわせせず））将来を見据えた対応をしたようですね。
- 一度この事業の統括をしたらどうでしょうか？団体の自主性を尊重することは大切なことですが、この事業目的を達成するために様々なスキームがあって当然です。そのへの整理を行政側ですることも必要かと思います。
- バス代の値上りなどこの予算では厳しそうである。市のバスなどは活用できないのであろうか。（担当課）
- 子供、親子対象に継続してほしい。NPO法人子育てネットワークに親子参加を呼びかけてみるのはどうか。
- 川越市内の単発イベント参加でなく継続的環境保全とつながるツアーで良かったと思います。
- 子供連れを対象としたことで知られていない環境ポイントを楽しんでもらえて良かったと思います。
- 参加者が少なかったようですが、子供会等に声かけをして参加者を増やせると良いと思います。
- 委託事業として展開しましたが、次のステップに進化する必要があると思います。今年度実施された中にもヒントがあると見受けられました。例えば「自主参加できる」。「バスではなく自家用車」・・・等です。
- 団体が持つエコスポット情報や訪問に適切な時期や手段をうまくまとめてPRできるようにしてはどうか。又、バスツアーも時期毎に企画するとか。団体のマンパワーでは難しいかもしれないので、行政がバックアップし、他の環境団体とのマッチングを図る等、お願いします。
- 環境保全活動は継続した積み重ねが重要です。行政を巻き込んだ展開がより効果が期待できると考えます。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	こども未来部 こども政策課	令和5年度
記入団体名	NPO法人川越子育てネットワーク	

予算事業名	子供・子育て支援新制度	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------------	--

協働事業名称	子育て情報誌作成	
協働事業の概要	川越市で子育て中の方やこれから子育てをする方が、安心して子育てができるよう、行政の制度、各種相談窓口、出産、子育てに関する情報などを紹介する情報誌を作成している。 その中の20ページ分を子育て中の市民と一緒に当事者の視点で必要な情報を掲載することとし、参加市民の募集や情報のとりまとめ、作成を行う。	
協働事業の決算額	150,000円	補助金額 (※提案型補助金の場合)
事業の実施期間	令和5年6月23日～令和6年3月31日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	①
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	③

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	34 点
------	------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

当事業は今回で22版目となる子育て情報誌の作成を行うもので、子育て当事者と行政双方の視点から子育て情報を掲載し、市内の未就学児のいる世帯へ冊子を配布することで、子育てを支援するものである。

掲載内容については、協働事業の実施により、市民活動団体の意見を取り入れながら、ニーズに合った情報を掲載することができている。

平成27年度版からは、編集印刷等を担当する民間事業者と協定を締結し、3者で事業を実施している。

これまで、冊子による情報提供がメインであったが、WEB版で閲覧していただくページを作成し、より読みやすく情報が得やすいような冊子づくりを目指した。

このように、今後も市民団体と市が協力して作成することで、より必要とされている情報を必要な方法で届けられるよう情報発信を進めていきたいと考える。

【市民活動団体等】

令和6年度版の制作会は、3年ぶりに託児付きで実施し、ママ記者達が必要な情報を同じ子育て家庭にどう届けるかを真剣に考え意見交換する姿が見られた。3回の制作会を通して、ママ達の繋がりも自然と強くなり地域に心強い仲間ができたことで子育ての励みになると改めて感じた。

今年度のテーマの1つ目は、「多様な子育てスタイル」。時代に合った多様な子育ての形をボランティアや働く母親、在宅で社会参加しながら子育てする母親、育休を取得した父親に焦点を当てた。2つ目は、「川越おでかけ」。ママ記者達が市内のおでかけ場所を取材したり、体験談を掲載したりすることで、子育て世代が広く利用しやすくなるようなページにまとめた。特にグリーンツーリズム拠点施設では、さつまいもの収穫体験を掲載し、親子で行ける新たな遊び場としてPRできたと思う。このように、お母さんとお父さんが作る川越市子育てガイドマップとして、妊娠中・子育て中の母親、父親に伝えたいリアルな体験記事の制作と、温かみのある風合いにこだわった、全国的にも珍しい情報誌が作成できたのではないかと思う。そこに市民団体が協働する意味があると感じられる。しかし、記者の募集、打合せ～体験・取材～原稿作成～校正作業という制作過程をこの短いスパンで実施するには、相応の人員費が必要であることをご理解いただきたい。また、紙冊子であることの意味は、全体を把握できる読みやすさにある。Web版と紙媒体の各々のよさが表現できると良い。

今後も川越の子育て情報提供の形としてのあり方と現役親の意見を素早く取り入れるつなぎ役となり、さらにニーズを把握しながら、もっと読み易く、子育ての役に立つ情報誌となるよう協議していきたい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	10	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B		ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	A
C		当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・社会の変化に対応しようとしていることは認められる。ただ、多様な新しい課題も出てきているので、課題に順位づけをするなど工夫をして、しっかり対応するように努力してほしい。

・協働事業の難しさを感じる場面も出てきたように思われますが、行政、団体とも何のための事業であり、何のための協働であるのかを再確認することが求められているかと思えます。事業としては、非常に重要なものであることに疑いはないので、双方が自らの考えを率直に述べながら事業を続けていただきたいと思います。

【事業に関するコメント】

- 毎回、良く出来ていると思います。多様な子育てスタイルではどのような意見が出てきたのか知りたいです。
- さつまいもの収穫体験をしたことは、子供達にも食育や土に触れることでの大切さを学んだりとそれぞれ収穫が多くあったと思います。
- 担当課は流山市の子育て支援を知っていますか？
- 子供を見ることは大変なことです。子供は何をするか分かりませんが、子供を良く観察し良く話をすることが大切だと思います。
- 不安な子育てママの応援歌として継続してほしい。また、パパ達のコミュニケーションも広がることを願っています。
- 団体が作っている情報誌として全国に誇れる。
- 成果物は素晴らしいものですが、その裏に、立場の違いによる見解の相違があるようですが、お互いの歩み寄りにより、着地点が見つかるのですか？
- 託児付きでママ記者と編集会議をすることはこの事業の魅力の1つとなっている。子育て中でも社会とつながる機会を提供することは大切である。
- この印刷業者は、他市でも子育て情報誌を作成しているが、川越版はNPOと行政・企業が協働している唯一の事例、子育て支援事業ともなっており、担当課はユニークな取り組みとして誇りをもっていただきたい。川越市民としても嬉しいことである。
- 委託費は相応ではないと考える。時給に換算すると県最低賃金を下回るのではないかな。
- 川越市役所の育休パパにも協力してもらえたらいいですね。団体もかかった時間数を基に市と協議できるよう準備してほしい。
- 時代にあった多様な子育ての形をボランティアや働く母親、育休を取得した父親に大変解りやすい冊子でそれぞれテーマに沿った説明のある素晴らしい冊子だと思います。これからも子育ての役に立つ情報誌となるよう発信を進めていただきたいと思います。
- コロナ環境の変化により対面での制作会となり、行政も参加した良い取り組みだと思います。ただ、行政視点と団体とのズレの表現が気になります。良く議論し解決していくべきと考えます。
- 「多様な子育てスタイル」がある中で短期間に成果を追求するより継続を通じ、地道に課題改善していくことが重要です。